

# コンピュータを活用し、児童の相互交流が生まれる学校図書館をめざして

## Aiming for a School Library Where Children Interact with Each Other Using Computers

長谷川 栄子

Eiko HASEGAWA

### 要旨 (Abstract)

学校図書館は、読書センター、学習センター、情報センターとしての役割がある。学習指導要領が新しくなり、外国語が加わった。メディア構成も新しくなる。図書資料として英語のCD、DVDなども加わることから、どのようにそれらを閲覧できるように環境を整備するのが、課題となる。

課題の解決の一つの方法として、コンピュータをはじめとするメディアを配置することが考えられる。それによって、子どもたちの相互交流で作り上げる検索システムを整備することができる。子どもたちが、主体的に読みたい本を閲覧できるようにコンピュータを活用したい。

**キーワード:** (学習センター) (情報センター) (学校図書館) (メディア構成) (コンピュータ) (相互交流)

### I. はじめに

学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している。

小学校学習指導要領が新しくなり、主体的・対話的で深い学びを求めていく授業では、今まで以上に図書館を活用した授業となり、学校図書館は、学習・情報センターとしての役割が大きくなる。そして、外国語が加わったことにより、メディア構成も新しくなる。図書資料として英語のCD、DVDなども整備される。ただし、それらを閲覧できるようにどのように環境を整備するのが、今後の課題となる。課題の解決のためには、コンピュータを配置し、活用したい。それは、子どもたちが個人で図書資料を閲覧することができることにとどまらず、子どもたちの相互交流で作り上げる検索システムを整備することにつながるかと考え、その可能性を探る。

### II. 学校図書館の整備状況における諸課題

学校図書館における図書館資料には、図書資料のほか、雑誌、新聞、視聴覚資料 (CD、DVD等)、

電子資料（CD-ROM、ネットワーク情報資源（ネットワークを介して得られる情報コンテンツ等）、ファイル資料、パンフレット、自校独自の資料、模型等の図書以外の資料が含まれる。

ただ、図書資料のほかについて①閲覧しやすいようにどのように配架するか、②雑誌や新聞の廃棄期日をいつに設定するのか、③視聴覚資料を周囲に迷惑をかけないようにどのように視聴させるか、④場所が限られている中、自校独自の資料や模型等をどの場所に設置するのか、⑤教職員の教育支援図書の配架場所の検討が、課題として挙げられる。

表1からは、図書標準達成が、未だ十分に達成できていないことが分かる。新刊書を手にすることが難しい子どもたちにも、是非とも本を手にする喜びを味わってもらいたい。また、外国語の授業が始まり、簡単な英語の絵本や良く知っている物語の英語版、英語の言葉辞典を揃えることが必要となる。公立図書館と連携をして補完に努めたい。団体貸し出しに

【表1 蔵書の整備状況】(単位%)

より、人気のある図書を複数本揃えたり、不十分な分野を補充したり、学級文庫の蔵書を刷新したりすることが考えられる。

	図書標準達成学校数の割合	
	平成25年度末	平成27年度末
小学校	60.3	66.4
中学校	50.0	55.3

表2によると、百科事典や図鑑などほぼ整備されているものの、経年年数を見ると、10年以上経ている学校

【表2 百科事典や図鑑など共通教材の整備状況】

	セット整備している学校数	全体に占める割合	整備されているセットの刊行後経年数別内訳			
			10年以上	5年以上	3年以上	3年未満
小学校	18, 624校	95.0%	55.3%	23.8%	11.2%	9.7%
中学校	8, 873校	94.1%	62.6%	20.9%	9.2%	7.3%
高等学校	3, 379校	96.3%	86.6%	8.7%	2.6%	2.0%

が、半数を超える。小学校、中学校、高等学校と上がるほど、その割合が高くなる。セット整備すると高額になることから、5年を超えた頃から計画的購入を考えておきたい。中学校や高等学校では電子書籍の活用も考えられるだろう。

表3に見られるように学校図書館に新聞を配備している学校の割合は、高等学校では9割以上配備されているものの、小中学校では、4割程度にとどまる。学校図書館の整備充実を受けて、今後新聞の配備が進んでいくことだろう。配備した新聞に興味を持つような見せ方をし、授業での活用も望まれる。

【表3 新聞の整備状況】(単位%)

	学校図書館に新聞を配備している学校の割合	
	平成26年5月	平成27年度末
小学校	36.7	41.1
中学校	31.8	37.7
高等学校	90.0	91.0

表4では、小中学校において、学校図書館の蔵書冊数に関する日本十進分類法による分類を把握している学校の割合が、意外にも少ないのに驚く。日本十進分類法と併せて、作家別、学年別、学習テーマ別、などの子どもたちの実態に合わせた配架方法を工夫して、本を自ら手に取る子どもたちを育てたい。分類

中、上位3位を占めるのは、小学校は、①文学、②自然科学、③社会科学。中学校は、①文学、②歴史・地理、③社会科学。高等学校は、①文学、②社会科学、③歴史・地理である。どの校種も文学が占める割合が高いものの2位と3位は、年代の興味関心を反映している。また、小学校におけるその他が、中学校、高等学校における割合よりもずいぶん高い。

【表4 蔵書の構成】

	学校図書館の蔵書冊数に関する日本十進分類法による分類を把握している学校の割合(%)	左記で「把握している」と回答した学校の日本十進分類法による分類別の冊数割合(%)										
		0 総記	1 哲学 宗教	2 歴史 地理	3 社会 科学	4 自然 科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	10 その他
小学校	58.3	2.4	0.8	3.6	6.3	11.3	4.1	2.5	5.7	3.0	40.7	16.4
中学校	54.6	3.1	2.4	9.6	9.3	8.2	4.3	2.0	9.4	4.4	39.8	7.5
高等学校	83.3	5.6	3.7	10.5	11.2	9.0	5.3	2.0	9.7	3.7	35.7	3.5

表5によると、中等教育学校における上位3位は、中学校や高等学校とその傾向は、変わらない。ただ、文学が、微減となった分、歴史・地理、社会科学、自然科学が微増となり、学習資料としての役割を果たしているとうかがえる。

学習センターや情報センターとしての学校図書館を考えた時、発達段階に応じて、どのような資料をどのような割合で構成するのか、検討する必要がある。探究的な学習を進める上で、教育課程と関連させ、歴史・地理、社会科学、自然科学の分野の充実を図っていきたい。

【表5 中等教育学校における蔵書の構成】

中等教育 学校	学校図書館の蔵書冊数に関する日本十進分類法による分類を把握している学校の割合(%)	左記で「把握している」と回答した学校の日本十進分類法による分類別の冊数割合(%)										
		0 総記	1 哲学 宗教	2 歴史 地理	3 社会 科学	4 自然 科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	10 その他
前期課程	80.6	5.3	3.4	10.1	11.6	9.5	4.0	1.8	8.9	4.3	35.0	6.2
後期課程	83.3	4.8	3.6	11.5	12.0	10.0	4.3	1.9	9.3	4.8	35.7	2.3

表6によると、学校図書館内に、児童生徒が、検索・インターネットによる情報収集に活用できる情報メディア機器が整備されているのは、高等学校及び中等教育学校前期課程である。適切に情報メディアを活用できる年代だからこそである。

小学校に外国語が加わり、英語の図書やCD、DVDが整備される。また、個に応じた図書マルチメディアダイジ図書などを聞いて読んだり、理科等の映像を見たりする環境を整えていく必要がある。

学校司書や担任に頼んで図書資料の検索をしたり、カウンターに配備されたコンピュータを使って題名や著者名を検索したりすることは、よく行われている。配備されたメディア機器を使って、子どもたちの相互交流が生まれるような読書活動を行うことも試行してみたい。

【表6 学校図書館と情報メディア機器の整備状況】

	学校数 (校)	学校図書館と情報メディア機器を活用できる部屋(コンピュータ室等)が一体的に整備されている(隣接して整備している場合を含む)	学校図書館内に、児童生徒が、検索・インターネットによる情報収集に活用できる情報メディア機器が整備されている	学校図書館内に、資料管理・資料返却用のみに使用される情報メディア機器が整備されている	整備されていない
小学校	19, 604	12.6	10.6	41.8	35.0
中学校	9, 427	8.2	12.5	40.8	38.5
高等学校	3, 509	4.6	47.6	31.9	15.8
中等教育学校前期	31	0	51.6	25.8	22.6
中等教育学校後期	30	0	26.7	26.7	23.3

### Ⅲ. 子どもたちが創るレファレンス

学校司書が、子どもたちの要望に応じて希望に見合う図書を推薦するのと同様、子どもたちの間で、読後にポスターやポップを貼ってお薦めの本を紹介することができる。一方、社会では、各新聞の文化欄に人気本ランキングと共に書評が掲載される。書評やランキングに心惹かれて書店に足を運ぶこともある。このアイデアを活用して、子どもたちが書いた書評で互いに触発されて本を手取る行為が生まれてほしいと願って本単元を構想した。学校図書館に設置されているコンピュータを活用して、子どもたちの書評が、財産となって本選びに活用されることを期待した。

(1) 単元/対象学年 作品を読んで書評を書こう/第5学年

(2) 教材

①教科書教材 「大造じいさんとがん」(光村図書)

②補助教材

子どもたちが選んだ椋鳩十作品・『だくちるだくちるーはじめてのうた』(V.ベレストフ/原案、

阪田寛夫/文、長新太/絵、福音館書店)「絵本紹介のホームページ」

(3) 単元観

本単元では、書評を書き、これから椋鳩十作品を読む人たちの参考になるように図書室のコンピュータに紹介ページを作ることにした。

「大造じいさんとガン」は、ガンの生きていくたくましさと美しさに大造じいさんが心打たれる物語で

ある。大造じいさんが抱く感情は、作者椋鳩十と重なる。子どもたちは、並行読書することによって他の作品にも共通する点を感じることができるだろう。感想を書く、作品の評価を書く、人の考えや好きな場面を引用して書くなど今までの学習で身に付けた力を総動員して表現することになる。指導に当たっては、作品の評価ができるような評価語彙集を作って示すことにする。コンピュータを使って書評を書く時には、子どもたちが書きやすいように書く内容を見出しに示したワークを使用する。学習を進めていく上で、何が書いて何が書きにくいのかを子どもたち自身にもわかるように自己評価を工夫したい。

(4) 単元の指導目標

- ①椋鳩十の作品について興味をもって読むことができる。
- ②叙述や情景描写から登場人物の心情を想像して読むことができる。
- ③評価語彙を知って使ったり、人の考えを引用したりして作品を評価しながら読むことができる。
- ④5年生を対象に椋鳩十作品の紹介ページを作ることができる。

(5) 単元の評価規準

- ア 人間と動物の交流を味わいながら読もうとしている。
- イ 叙述や情景描写を手掛かりにして、登場人物の心情を想像しながら物語を読んでいる。
- ウ 解説者やクラスの人の考えを利用するためにあとがきや書評を読んでいる。
- エ 既習の漢字や評価語彙を使って書評を書いている。

(6) 単元の授業過程 (全 17 時間)

次	時	学習内容	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	①『だくちるだくちるーはじめのうた』の読み聞かせを聞く。 ②『だくちるだくちるーはじめのうた』の書評を読んで感想との違いを見付ける。	○擬音語のリズム感を大切に朗読する。 ○プロジェクターで書評が掲載されている絵本紹介ページのコンピュータ画面を見せる。 ○書評をダウンロードし、ワークシートに掲載する。	イ作品の評価の部分に着目して読んでいる。【ワークシートの分析】
	2	③物語を紹介する方法を交流する。 ④学習課題「椋鳩十作品の書評を書いて、図書室の検索ページを作ろう」を設定し、学習計画を立てる。【学習計画表】	○あらかじめ用意したコンピュータ画面を見せ、イメージをつかませる。	ア紹介する観点を理解して学習の目当てを立てようとしている。【学習計画表の分析】

		⑧「大造じいさんとがん」を音読する。	⑤椋鳩十作品の並行読書を始める。	○読書カードを用意し、紹介ページの下書きと資料になることを押さえる。	ウ意味の分かりにくい語句について辞書を引きながら読んでいる。【学習態度の観察】
二	3～9  3～9	⑨あらすじと感想を交流する。  ⑩叙述や情景描写から登場人物の心情を想像する。	⑥読書カードに題名、登場人物名、あらすじ、登場人物の心情を書き込む。  ⑦情景描写に付箋を貼る。	○詳しく書く部分と省略して書く部分を区別させる。  ○人物と動物の交流に焦点を当てさせる。  ○本の紹介ページや解説文から書評を準備しておく、モデルにさせる。  ○各自の評価語彙を確認して励ます。	イ叙述や情景描写から登場人物の心情を想像して読んでいる【ノートの分析】  イ評価語彙を知って書評を書いている。【書評の分析】
三	10～17	⑬ワープロソフトを使って表紙を挿入する。【ワークシート2】  ⑭紹介する物語のあらすじを書く。【120字】  ⑮好きな情景描写を引用し、登場人物の心情を書く。  ⑯「物語を評価する時のおすすめ言葉集」を使って書評を書く。【800字】  ⑰あとがきを読んで、解説者の考えを引用して書評を書く		○あらかじめ表紙をスキヤナーで取り込んでおく。  ○子どもたち使った評価語彙や資料から「物語を評価する時のおすすめ言葉集」を作成して配布する。  ○使用した評価語彙が適切かどうか見直しをさせる。	ウ既習の漢字を使って書いている。【書評の分析】  イ場面紹介、情景描写など文章を引用して書いている。【書評の分析】

		<p>⑱互いに書評を読み合い、クラスの人の考えを引用して書評を書く。</p> <p>⑲書評を読み合い、キーワードから観点を決めてハイパーリンクを貼る。</p> <p>⑳作成した紹介ページを読み合って推敲する。</p> <p>㉑他のクラスに本を紹介する。</p> <p>㉒相互評価し、学習の振り返りをする。</p>	<p>○読書掲示板に掲示されたカードを参考にさせる。</p> <p>○書評のキーワードや読後感の観点からおすすりリンクを貼らせる。</p> <p>○読書タイムや図書室利用時に紹介させる。</p>	<p>イ評価語彙を使って書いている。【書評の分析】</p> <p>イクラスの人の感想や解説者の考えを引用して書いている。【書評の分析】</p> <p>ア人間と動物が交流する物語のおもしろさを伝えようとしている。【紹介の観察】</p>
--	--	--	---	--

(7) 学習の実際

これまでに子どもたちは、物語を読んで感想文や紹介文を書き、他者と読み合った経験がある。さらに物語を紹介する新しい方法として書評を書くことを提案したいと考え、児童に書評と感想文を示して比較させた。【ワークシート1】

書評を書く抵抗を少なくするために【ワークシート2】のファイルと自分が作成する文書をコンピュータ画面に複数表示させた。書評に盛り込む内容を提示しているので書きにくい子どもは、【ワークシート2】に直接書き込むことも可能である。また、自己学習を進めたり、推敲したりするときに内容漏れを防ぐのにも効果的である。

これまでの物語作品を文章で評価するという経験が少ないために、作品をどのように評価すればよいのかを学習する必要があった。子どもたちがよく使う言葉として「おもしろかった」「よかった」「ジーンとくる」「涙が出るほど感動する」「思わず笑ってしまう」「おもしろくない」「つまらない」という言葉が挙げられる。これだけでは、作品の評価には不十分であるので、「物語を評価する時のおすすめの言葉集」を参照させて書くことにした。

おもしろくなかったというような否定的な評価の作品を紹介しても良いと指示していたものの、全員が肯定的な評価の作品を紹介する方法を選んだ。

物語を読み終えたら本を閉じてしまう子どもたちがほとんどである。「丸ごと本を食べちゃおう」を合言葉に人の考えを引用して書くために、本のあとがきや解説のページまで読むことにした。

自分の書いた作品を推敲するために読み合う学習は、子どもたちはこれまでも経験してきた。今回の読み合う学習では、同じ作品を読んだ人同士で感想を述べ合って引用したい部分を考えること、リンクを貼る相手を探すことという二つの目的がある。これらの目的が互いの作品を読む必然性を生み、真摯な意見交換になった。

ハイパーリンクを貼るというコンピュータ操作は、子どもたちにとっては新しい学習内容であったの

で、始めは難しそうだという表情でスクリーン画面を見つめていた。説明が進むにつれ、子どもたちの表情は、新しい操作を理解しようと真剣な表情になっていった。画面転換の際には、「ワー。」と驚きの声が出る。「すごい。」「おもしろそう。」「先生、早くやろう。」と興奮していた。

ハイパーリンクを貼る学習をすると、次のような効果が生まれた。

- ①クラスの人たちの書評を読む必然性が生まれる。
- ②書評のキーワードを捉える力を育てることができる。
- ③多角的に作品を捉えることができる。
- ④クラスの人たちと連携する学習の楽しさを味わうことができる。

子どもたちは、「どの動物が登場するかは、題名や表紙からでも分かるよね。」と言うように、ただ登場している動物が同じだということでハイパーリンクを貼っても意義が薄いことに気付いていく。

学習が早く進んだ子どもは、「ハイパーリンクを複数貼りたい。」ので、進んでお薦めの観点を複数考えた。その観点を考える時には、自分の思いも大切だが、「書評を読んでいる人が、どう思うかを考えた方がいいよね。」と相手を意識する場面も見られた。

ハイパーリンクの言葉を考えるときになかなか相手を見付けられない子どもがいたので、クラス全体に呼びかけるよう促した。「僕は、いたずらするキツネは、寂しい気持ちでいると思います。『いたずら』の言葉でつながる人はいませんか。『寂しい気持ち』でつながる人はいませんか。」と発言することができ、クラスの人が挙手した時のほっとした表情が印象的であった。

ハイパーリンクを貼るページは、目次にするとよい。同じ観点の書評を読み進めたり、違う観点から書評を探したりするときに便利だ。

他のクラスにコンピュータ画面を使って説明すると、そこでさらに感想の交流が行われる。それで得た考えをさらに諸表に付け加えようとする子どももいた。

「来年度の5年生も、きっとこのページを見て学習の参考にしてくれるよ。」と話すと、照れくさそうな顔をする子どもたちである。自分の作品が残ること、学習が連続していくことの意義を子どもたち自身が感じて終えることのできた学習であった。

#### IV. 終わりに

上記の実践の外にも、読書をして①心に残る名言集を作ろう、②おすすめの本を紹介しよう、③～について調べるときにおすすめます等が考えられる。コンピュータを使用すると、データの追加が簡単で年度を超えた学習でも保存ができ、学習の連続性が生まれ、子どもたちの財産になることが利点である。また、子どもたちの相互交流が生まれ、子どもたちで作り上げることができ、読みの多様性や深みが表現できる良さがある。個々の学びだけに終わることのない、主体的・対話的で深い学びへの可能性がある。

今回は、椋鳩十作品を題材にした実践を紹介したが、同一作家の作品だけでなく、①テーマを決めて読む、②日本十進分類法別に読む、③自由に読むなどの方法でデータを増やし、コンピュータを活用して多様な検索を子どもたちが自ら行うことができると、学習が実の場と繋がり、学習の意義を感じ取れるだろう。図書資料として英語のCD、DVDなども加わることから、コンピュータの配置を考えるこの時期、子どもたち

相互の交流で作り上げる検索システムを取り入れ、子どもたちが参画する学校図書館経営を行いたい。

【ワークシート1】

学習を始めて一時間目  
月 日 名前

① 絵本『だくちる』は、だくちるはじめてのうたを讀んで、まさやさんが(1)の文章を書きました。ゆみさんは、(2)の文章を書きました。二人の書いた文章を比べて読みましょう。そして、書かれている内容についてちがっている点を見つけましょう。

**まさやさんが書いた文章**  
 実を言つとぼくは、この絵本を一年生の時に何度も讀んだ。このお話は、きょうりゅうが住んでいたころのお話だ。さびしいイグアナドンがブテロダクチルに出会って元気をもらう。初めて聞く歌にうれしくなるんだ。今また手に取って見て、発見した。「だくちる」だ。だくちるは、ブテロダクチルをもちろんで作った歌だ。みょうに「友達来る」にも通じて気持ちのいい歌だ。くり返されて聞かせる歌のそんな感じが気に入って讀んでいたのかもしれない。  
 この絵本がきっかけで、きょうりゅう図がぼくは、図書委員なので、今度の読書週間の際に、二年生向けに讀んで聞かせてあげようと思う。ぼくと同じ気持ちになつてくれる人がいるといいなあ。

**ゆみさんが書いた文章**  
 この作品は、日本の詩人V.ベレストフさんの原案を、日本の詩人阪田寛夫さんが使つて文を書いています。阪田さんは、「ねこぶんじゃった」を作詞した有名な人です。長新太さんのかいた原始の世界から、人がいなくなつてしまつた世界。だくちるは、と音が聞こえてくるのもこのせいでしょう。きょうりゅうの足音も鳥の羽のゆれる音も聞こえてくるようです。このように三人の個性がぶつかつてきた絵本です。  
 長新太さんは、絵の具をただ使つて力強く大だんに書いています。六十七才の時に書いたなんて思えないくらいです。素ほくな感じが原始の時代とびつたりマッチしています。今までの絵本の絵とちがつとちがつて勢いがあります。喜びやさびしさの感情が色と共に伝わってくるようです。  
 「イグアナドンがうれしうときは、火山のふん火も花火みたくにえががれていて、山の上がうらやましく見えても気分によつてちがうね。」と、話してくれました。自分のそばにいる友達を思い浮かべてみたい一冊です。

ゆみさんの文章は、  
 ①感想文 ②書評 です。

①、②のどちらかを選んで○をつけましょう。

まさやさんの文章は、  
 ①感想文 ②書評 です。

その理由は、書かれている内容が

①

②

その理由は、書かれている内容が

①

②

「各段落に書かれている内容をとらえよう」

③

だからです。

③

だからです。

【物語を評価する時のおすすめ言葉集】

良かった時に使う言葉		つまらなかった時に使う言葉	
読んだ時の気分	物語に対して	読んだ時の気分	物語に対して
うっとりした	明るい	あきてくる	B級
思わず笑ってしまう	温かい	いらいらする	くどい
感動する	安心して読める	うんざりする	少しむずかしい
期待どおり	美しい	おもしろくない	だらだら長い
心がおだやかになる	おすすめできる	たいくつする	内容がむずかしい
心が安らぐ	気軽に読める	つまらない	分かりにくい
心を動かされた	興味深い	ねむたくなる	
心を奪われた	けっさく	不満が残る	
心を揺り動かされた	最高	よくない	
ゾーンとくる	すぐれた		
じわっときた	すばらしい		
すきっとする	高く評価できる		
大好き	楽しい		
ドキドキする	登場人物になれる		
涙が出る	人気がある		
ほっとした	のびのびした世界		
ほんわかした	必読		
また読みたくなる	み力的		
目をひく	ユーモラス		
物語の世界に入りこめる	よかった		
ゆったりとした気分になった	笑える		
わくわくする			

このほかにも見つけたら、表の中に書きこんで、上書き保存してね。



**学習活動⑮⑯**

**【コンピュータを使う手順】**

- ① 書評の画面を開く。
- ② ウィンドウをクリックし、「並べて表示」を選ぶ。
- ③ 表計算ソフトの「物語を評価する時のおすすめ言葉集」を開く。
- ④ 書評の画面の左側でポインターを矢印に変えて画面の幅を狭くする。

## 【ワークシート2】

## タイトルを書きましょう

## 1 おすすめ度



色をぬっておすすめ度を表そう！

## 2 書評

(1) あらすじを書く (120字まで)

## 【表紙の写真】

- 1 表紙をスキャナーで取り込みます。
- 2 「挿入」→「図」→「ファイルから」→「W」  
→「Stw5」→「5年1組」→「自分の表紙」  
をクリックします。

(2) 印象に残った場面を引用して、自分の感想を書く

引用の方法

①「 」の中にそのまま文章を書きめく。

②段落を変えて書く。

感想の内容

①登場人物の気持ち。

②登場人物への自分の思い。

③自分の体験や生活と結び付けて。

(3) 解説者の考えを引用して自分の感想を書く

物語の後ろにある「あとがき」や「解説」を読みましょう。  
引用の方法①を使いましょう。

(4) 同じ作品を読んだ人の考えを引用して書く

読書交流のけい示板を見て、同じ作品を読んだ人に考えを聞いて  
書きましょう。

(5) 作品を評価する

困ったときは、評価語彙集を見て書きましょう。

(5) ハイパーリンクをはる

コンピュータの先生とみんないっしょに学習します。  
書いた書評を読み直して待ちましょう。一人で→書き終わった人 (二人以上と)

(1)~(5)を書く  
順序は、変わっ  
てもいいよ。



## 【参考文献】

平成 28 年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について、文部科学省 (平成 29)

小学校学習指導要領

小学校学習指導要領解説 国語編、文部科学省 (平成 29)

「作品を読んで書評を書こう一人の考えを引用する」長谷川栄子

『コンピュータを活用した国語力の育成』井上一郎編著 (2008) 明治図書